

坂本 實先生の御定年退職に寄せて

ネットワーク情報学部教授坂本實先生が本年（平成19年）3月をもって定年退職されます。学部を代表して、坂本先生の業績や思い出の一端を述べさせていただき、ご挨拶とさせていただきます。

坂本先生にはいろいろなところで我々すべてがお世話になっています。その最たるものは、高津先生亡き後の学部長代行や学部長です。坂本先生は、4年間の経営学部長に引き続く、2度目の学部長です。経営学部長2期、ネットワーク情報学部長1期、同代行1年なので、正確に言えば、3.5度目の学部長かもしれません。高津先生が亡くなることは誰も予想しなかったことで、学部としては、ご迷惑とは思いつつもベテランで学部業務のすべてを知り尽くした坂本先生にお願いせざるをえなかったといえましょう。坂本先生にお願いすれば、滞りなく学部業務を続けられるという気持ちが学部の構成員全員にあったと思います。

また私が学部長に選出され、今まで担当していた情報科学センター長の後任でいろいろ悩んでいるとき、結局は、また坂本先生に再度のセンター長をお願いしました。坂本先生は、「学部長に続いてまた再履修ですね」と苦笑されていましたが、多大なるご迷惑をおかけしてしまいました。特に今期は次期機種選定の時期にあたり、いろいろご苦労されたことは容易に想像できます。この他にも困ったときには、いつも坂本先生へいろいろお願いをしていたように思います。これは坂本先生への絶大な信頼のなせる業といたら許して頂けるのでしょうか。

坂本先生は昭和49年4月入職以来、助教授歴1年、教授歴32年になりますが、このようなこともあり、全学的にもいろいろな仕事をお引き受けになりました。学部内の委員などは省略すると、つぎのようになります。

経営学部長（4年）、ネットワーク情報学部長（1年）、大学院経営学研究科主任（2年）、専修大学情報科学研究会会長（1年）、専修大学情報科学研究所長（3年6ヶ月）、学生部次長（2年5ヶ月）、学生部委員（7ヶ月）、図書館委員会委員（3年）、教員資格審査委員会委員（9年）、入学試験委員会委員長（2年）、入学試験委員会委員（3年7ヶ月）、国際交流委員会委員（3年3ヶ月）、国際交流センター委員会委員（3年3ヶ月）、電子計算室運営委員会委員長（2年1ヶ月）、電子計算室運営委員会委員（3ヶ月）、情報科学センター長（5年7ヶ月）、情報科学センター運営委員会委員長（1年7ヶ月）、戦略会議委員（9ヶ月）、eキャンパス推進委員会委員（2年7ヶ月）、ホームページ運営委員会委員（1年7ヶ月）、・・・。

坂本先生は、このように長きにわたって、研究・教育上あるいは学内業務において本学に実に多大な貢献をされてきました。

ところで、坂本先生は、最適制御やオペレーションズ・リサーチ（OR）あるいはモデル分析の分野を専門として研究をされてきたわけですが、特にロシア（正確に言えば当時はソ連ですが）の自動制御やORあるいは数学の分野を実に多数、日本に紹介され、両国の橋渡しをされています。ロシアは1960年代後半よりアメリカと並び数学や自動制御の進んだ国です。米ソの宇宙競争が背景にありました。

坂本先生は、ネットワーク情報学部では、モデリングの基礎、モデル解析論、数学モデルのようなご専門と直結する授業を担当されてきました。このような分野は、数学的手法、コンピュータ技法、社会・ビジネスを結びつける重要な分野で、坂本先生は、学部学生が広く社会で活躍できる基礎を築かれました。

最後に、すこし個人的なことになりますが、私自身も大学院時代は自動制御を少しかじっていましたが、当時購入した専門書の中に、ボルチャンスキーの最適制御の数学的方法がありました。学生時代から十数年経ち、本学に転職してきて、同じ経営学部におられる坂本先生がボルチャンスキーの本の記者ということを知りびっくりした記憶があります。昨年12月の最終講義の際には、最大値原理をめぐるポントリヤギンとボルチャンスキーの間の興味深いお話を聞かせていただきました。

今後とも、坂本先生がさまざまな分野でご活躍されることを願い、ご退職に寄せる言葉とさせていただきます。

ネットワーク情報学部長
齋藤 雄志